

また、最近の子供達に対する総合教育の必要性の高まりのなかで、この「五十嵐川～歴史と自然の道」が次世代を担う子供達への歴史や環境教育などの体験の場となり、さらにはこのルートを地域の新しい価値創造へと結びつけて行くことが出来ればと思っています。

最後に今回こうして松尾与十郎の足跡をたどる「五十嵐川～歴史と自然の道」づくりの実現の機会を与えてくださいました北ロータリークラブの皆様方に心より感謝申し上げたいと思います。

会員の声： ドクターシリーズの卓話に思うこと 早川 龍雄

山本プログラム委員長によるドクターシリーズの卓話。昨年12月11日「スポーツ中における心臓事故」水野内科クリニック水野春芳先生。2月26日「目の成人病」としみ眼科医院院長山口淑美先生。3月5日「歯の成人病について」新潟大学歯学部歯科保存科名誉教授歯学博士原耕二先生。4月16日当会員の小島茂男先生の「糖尿病発病は予防できるか」そして4月23日「EDって何だ？」平岩医院院長平岩三雄先生の卓話。我々の年代になると多かれ少なかれ疾患があると思う。一番興味があったのは平岩先生の卓話であった。最初は泌尿器科の成人病のテーマが、パイアグラとEDに話が変わり、言葉巧みにおもしろおかしく話をされたのはよかったが、泌尿器の病気の話がなかったのも、機会があれば聞きたいと思う。

第11回理事会

開催日時	平成14年5月7日（火） 11：30～
開催場所	三条ロイヤルホテル
出席者	木宮 長谷川（博） 梨木 山中 石川（勝） 山崎 落合 今井 堀川 大野 小林（満） 五十嵐 オブザーバー石川（友） 出席者12/13（内委任状4）
協議事項	1. 会長幹事慰労会企画案 承認 6/25（火）18：30～ 三条ロイヤルホテル 2. 4/8 3RC合同講演会決算報告 承認 3. 地区協におけるバザー協力の件 承認 会長幹事に一任 4. 家庭会合の件 承認 5/20～23 4日間 5. 第四分区会長幹事会の件 承認 5/23（木）饒心亭 おゝ乃 6. 社会奉仕事業の件 承認 7. 退会届の件（石塚会員） 承認

5月14日例会： 卓話 小林 満会員・淵岡 茂会員

5月21日例会： 地区協議会報告会

5月28日例会： 卓話「仕事や人生に大成功する方法」佐藤啓策会員

6月4日例会： 家庭会合報告会

6月11日例会： クラブフォーラム



三条北ロータリークラブ週報

人類が 私たちの仕事

例会日
2002. 5. 7
累計 No 752
当年 No 43

国際ロータリー会長 リチャードD. キング 第2560地区ガバナー 野沢謹五
ホームページ <http://www2.next.ne.jp/2560nzwa>

会長/木 宮 隆

幹事/山 中 正

SAA/長谷川 恵慈

例会日/火曜日 12:30～13:30

例会場/三条ロイヤルホテル

事務局/三条市西四日町3-15-34

☎34-8111 FAX34-8114

ヒューマン・ハーバー内

☎35-7160 FAX33-8972

メールアドレス north@sanjo-nrc.org ホームページ <http://www.sanjo-nrc.org>

行 事： 「環境保全月間」

卓話「五十嵐川～歴史と自然の道」企画に際して

森林インストラクター 小林良範様

出 席： 本日の出席 57名中 40名

先々週の出席率 58名中 48名 82.76%（前年同期74.14%）

先週のメイクアップ： 5月2日 燕RCへ 佐藤弘志さん

ゲ ス ト： 森林インストラクター 小林良範様

環境カウンセラー・県自然観察指導員の会副会長

県オリエンテーリング協会副会長・三条ホテルの会会長

ビ ジ タ ー： 三条RCより 斎藤弘文さん

会長挨拶： 木宮 隆



最近、NPOという横文字をよく見かけるといいます。

non profit organization（非営利組織）の略称です。額面通りに解釈すれば、儲けてはいけない組織・・・つまり、ボランティア・サークルなどと混同されているむきも多いと思います。

多分、非営利＝ボランティア（奉仕）という一連の連想が私達には根強く印象付けられているせいではないでしょうか。ここで言う、非営利とは表現を換えれば、利益を配当しないという意味なのです。株式会社であれば、毎期収益の一部を出資者である株主に配当しなければなりません。

NPOでは収益が出た場合、それは配当にはまわさず、全て事業に再投資されます。

又、この組織で働く人達も、ボランティアとして無償で奉仕するのではなく、給与所得を受ける事ができます。NPOではボランティアの人たちの協力を得ながら事業を展開するケースが多いた

め、その点からもボランティア・サークルと誤解されやすいのかも知れません。

一昨年の暮れに、NPO法案が国会を通過し、組織としての立ち上げがし易くなりました。折から、大きな政府から小さな政府へという地方分権を求める政治的なうねりの中で、NPOが注目されているとも言えます。NPOはその発生の性格上、事業の目的や対象が福祉、教育、環境など、どちらかというと従来、国や地方公共団体が行ってきた事業が中心となります。

本来、国や地方がやるべき公共的な事業やサービスを公的機関に代わって、民間が代行するので。当然のことながら公的機関の仕事の一部が民間委託される訳ですから、税金の節約となる訳です。

莫大な財政赤字に苦しむ国や地方の自治体にとっては、財政再建の一助となるNPOの出現は正に福音といえるでしょう。

NPOの普及、発展の障害となっていることの一つに、現行の税法の問題があります。NPOの資金調達は主として、企業や一般市民からの寄付によります。欧米はともかく、日本において、現行の税法では、寄付金に対する損金経理が充分とは言えません。従って、今後、NPOに公共サービスを肩代わりさせたいのであれば、企業献金に対する税制上の恩典をもっと手厚くする必要があります。

少なくとも、企業の寄付に関しては経常利益の5%程度は損金として認めるような配慮が必要といわれています。寄付金減税による収税減を補うだけの節税効果をNPOに求める事ができるかの試算をしっかりとする事が急務ではないでしょうか。

先回お話した、ミニ市場公募債、やPFIなど小さな政府を指向する、民間を巻き込んだ動きが近年、活発となってきています。

税金を徴収し、それを公共サービスの形で還元するという国家運営の大前提が今、パラダイム転換期を迎えようとしている。そんな世の中の変化を生活の処々に感じる今日この頃です。

幹事報告：五十嵐副幹事

・三条市障害児教育研究協議会より お知らせとお願い

例年3月に行っておりました「卒業進級を祝う会」を行わないことといたしました

委員会報告：

次年度幹事 家庭会合の案内を配布しましたが、出欠表をまわしますので、ご記入ください

ニコニコボックス：	7日現在累計 937,000円
-----------	-----------------

小林幹扶君 初孫が出来、ジジイになりました。まだジイちゃんと呼ばれたくなかったけど、しょうがないですね。

笠原壮玄君 緑^{した}滴る立夏にふさわしい卓話に期待、／

梨本清一君 本日の講師小林良範氏には社会奉仕委員会は色々のご指導を頂きました。目的を共通する者同志として今後ともよろしく願います。本日都合にて早退になります。お許し下さい。

本間建雄美君 小林良範様、本日の卓話楽しみにしています。

小林繁男君 森林浴にかんぱい。

佐藤義英君 3日のロータリーコンペで優勝しましたので、！

丸山勝君 BOXに協力

斉藤興一君

坂本勝司君

今井克義君

山崎勲君

* 4月のコメント賞は該当者ありませんでした。

卓話：「五十嵐川～歴史と自然の道」企画に際して 森林インストラクター小林良範様



三条市は、その中心部を東西に流れる五十嵐川の扇状地として形成されています。五十嵐川は郷土三条にとって母なる川であると同時に、その景観は“ふるさとの顔”そのものと言える存在です。

その五十嵐川をテーマに、もっと五十嵐川のことを多くの市民の皆さんに知ってもらおうと「五十嵐川自然塾」という市民講座を私の所属する三条ホテルの会で始めたのは、2年程前のことです。その自然塾の講座の一つに“五十嵐川の成り立ちと歴史”というものを設けましたが、その下調べのなかで、五十嵐川の歴史について三条市史など

を、読み、現地を歩き回って調べているうちに、松尾与十郎に行き着き、その史跡などを地図上に落としているうちに、一つの周回コースが出来上がっていることに気づきました。

その後も五十嵐川の治水や与十郎に関する情報を集めていくうちに、このコースを何とか、良寛の道と同じような形で市民に紹介できないものだろうかと思い、温めていたのが、今回のこの企画の始まりです。

五十嵐川は、現在では堤防が切れることもなく、管理された穏やかな川になっていますが、その昔は左岸には堤防がなく、毎年のように洪水をもたらす暴れ川でした。それは三条町を守るための遊水地として左岸側を位置づける政策が江戸の初期から明治の初めまで続けられていた為です。

長年の嵐南地域の人々の悲願であった左岸築堤を自身の生涯と家財の全てを費やしながら、人心をまとめ、地域の人たちを一致協力させて完成に導き、水害の苦しみから救ってくれたのが、片口村に生まれ幕末から明治に生きた松尾与十郎でした。

また、与十郎は築堤だけでなく、松栄橋（現常盤橋）の架橋や道路や水路の開削、そして子弟教育の面などでも功績を残しています。

その松尾与十郎の足跡をたどるルートを、「五十嵐川～歴史と自然の道」として設定し、市民の皆さんが地域の歴史や河畔の自然などを楽しみながら、そしてそこから様々なことを再発見し、学ぶなかで、郷土の誇りと自信、そして愛郷心を養うことができるようにというのがこの企画のねらいであり、趣旨です。